



循環器疾患が多い犬種は・・・？

■ 循環器疾患 犬種別発症率(0歳～8歳平均)

0～8歳の犬の給付金請求データをもとに、循環器疾患の発症率を

調査したところ**2.9%**であった。さらに、犬種別で見ると、

キャバリア・キング・チャールズ・スパニエル(以下、キャバリア)が、15.3%で、最も循環器疾患の

発症率が高かった(図1)。続いて、ポメラニアン、マルチーズ、チワワ、シー・ズー、ヨークシャー・テリアの発症率が高かった。

さらに循環器疾患発症率の年齢推移を調べたところ、加齢により発症率が増加する傾向にあったが、**キャバリアの場合は、0歳からす**

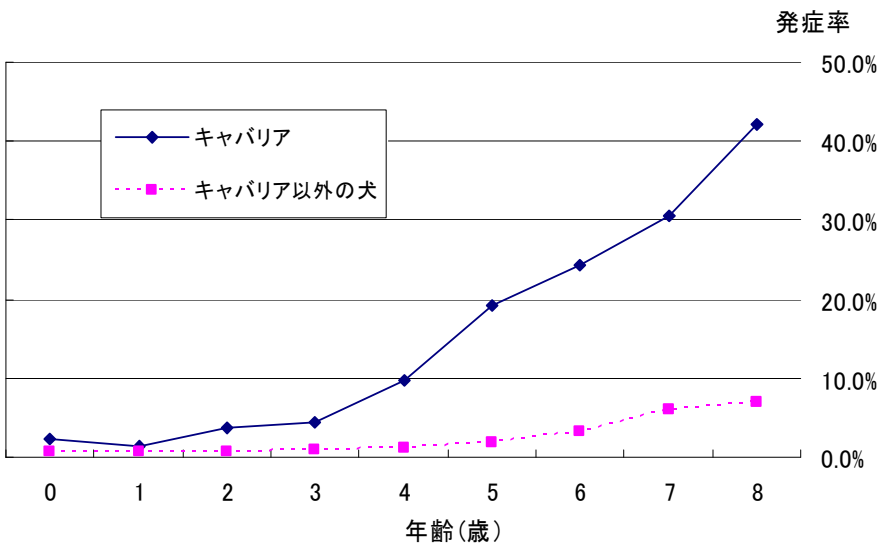
でに発症率が2.3%であり、4歳になると9.6%、8歳になると42.1%であった。キャバリア以外の犬種でも、7歳を越えると、6.0%以上の発症率となった。

【図1:犬種別発症率 (0歳～8歳平均)】

犬種	罹患率
キャバリア	15.3%
ポメラニアン	5.9%
マルチーズ	5.3%
チワワ	4.9%
シー・ズー	3.8%
ヨークシャー・テリア	3.8%
トイ・プードル	3.4%
パグ	3.2%
ミニチュア・シュナウザー	2.8%
パピヨン	2.1%
ミニチュア・ダックスフンド	1.8%
犬全体	2.9%

【図2:循環器疾患発症率の年齢推移】

年齢	キャバリア	キャバリア以外
0歳	2.3%	0.8%
1歳	1.5%	0.8%
2歳	3.7%	0.8%
3歳	4.3%	1.0%
4歳	9.6%	1.3%
5歳	19.1%	1.8%
6歳	24.4%	3.3%
7歳	30.5%	6.0%
8歳	42.1%	7.0%
0-8歳平均	15.3%	2.5%



※ 2006/10/1～2007/9/30までの一年間に契約を開始した犬227,876のうち、1回以上の循環器疾患での請求があった3,772頭を集計
※アニコム契約頭数に対して、当該疾病について1回以上の請求があった犬の割合を発症率とした。

**キャバリア・
キング・チャールズ・スパニエルは、
循環器疾患に注意!!!**

